

イベント情報

講演会

日時:2019年6月11日(火) 午後2時～午後3時30分 ※同時通訳つき
ブリュノー・マルタン(国立建築文化財メディアテーク写真部門資料調査担当)

「写真家ピエール・シュモフのカメラがとらえた松方コレクション」

日時:2019年7月20日(土) 午後2時～午後3時30分
宮崎克己(昭和音楽大学教授)

「印象派ブームわき起こる～第一次大戦直後の日本」

日時:2019年6月15日(土) 午後2時～午後3時30分
邊牟木尚美(国立西洋美術館研究員)

「松方コレクション展と作品修復」

日時:2019年9月7日(土) 午後2時～午後3時30分
陳岡めぐみ(国立西洋美術館主任研究員)

「松方コレクション 百年の流転」

参加方法
会場:国立西洋美術館講堂(地下2階)
定員:各回先着130名
(聴講無料。ただし聴講券と本展の観覧券(半券可)が必要です。)

当日12時より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚聴講券を配付します。
会場へは開演の30分前からご入場いただけます(整理番号順)。
※講演会のタイトル、内容等は変更となる場合があります。

スライドトーク

日時:2019年7月5日(金)、8月16日(金)、23日(金)、9月13日(金)
各回午後6時～(約30分)

会場:国立西洋美術館講堂(地下2階)
解説者:玉生真衣子(東京大学大学院)

定員:各回先着130名
(聴講無料。ただし、本展の観覧券(半券可)が必要です。)
参加方法:直接講堂にお越しください。
(開場時間は各日とも開演の30分前)

プレミアムフライデーイベント

日時:2019年6月28日(金) 午後7時～午後8時
木下悠(凸版印刷株式会社文化事業推進本部)

「クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》
デジタル推定復元について」

日時:2019年7月26日(金) 午後6時30分～午後8時
馬潤明子(国立西洋美術館長、ジャポニスム学会会長) 田沢 裕賀(東京国立博物館学芸研究部長)
司会進行:陳岡めぐみ(国立西洋美術館主任研究員)

「西美メーハク 松方コレクションにみる西洋美術と浮世絵版画」
主催:上野文化の杜新構想実行委員会、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

参加方法
会場:国立西洋美術館講堂(地下2階)
定員:各回130名
(聴講無料。ただし整理券と本展の観覧券(半券可)が必要です。)

当日開演の1時間前から、本館1階東口付近(企画展示館に降りる階段付近)にて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚整理券を配付します。
会場へは開演の30分前からご入場いただけます(整理番号順)
*講演会のタイトル、内容等は変更となる場合があります。

国立西洋美術館・東京国立博物館 連携企画

松方コレクションの浮世絵版画

会期中、東京国立博物館本館10室では、松方幸次郎が収集した“もう一つの松方コレクション”である浮世絵版画約8000点から優品を選び、4期に分けて展示します。初期浮世絵版画が充実し、浮世絵発展の歴史を通ることのできるコレクションを、本展と合わせてお楽しみください。詳しくは <https://www.tnm.jp/>

第1期:6月4日(火)～6月30日(日) 第2期:7月2日(火)～7月28日(日)
第3期:7月30日(火)～8月25日(日) 第4期:8月27日(火)～9月23日(月・祝)

音声ガイドナビゲーター

橋本さとしさん(俳優)

「プロフェッショナル仕事の流儀」でもおなじみ、
深みのある美声で、作品の魅力とコレクションに
まつわる激動のドラマをお伝えます。



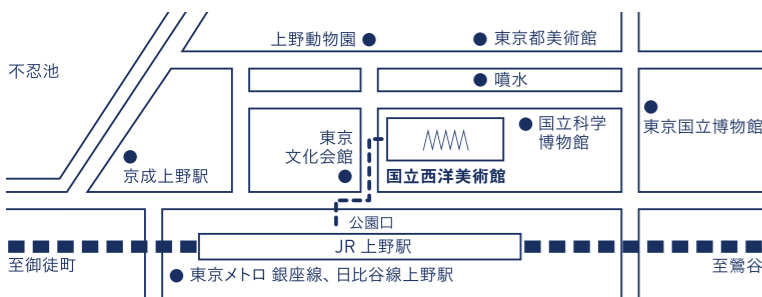
貸出料金:550円(税込)/1台

[観覧料]	一般	大学生	高校生
当日	1600円	1200円	800円
前売/団体	1400円	1000円	600円

●団体は20名以上、●中学生以下は無料、●心身に障害のある方および付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください)、●7月20日(土)～8月6日(火)は高校生無料観覧日(入館の際に学生証をご提示ください)

[前売券販売期間] 2019年3月6日(水)～6月10日(月)まで。
※ただし、国立西洋美術館では2019年6月9日(日)まで販売。

[チケット販売場所]
国立西洋美術館(開館日のみ)、公式オンラインチケット、イープラス、チケットぴあ(Pコード:769-590)、ローソンチケット(Lコード:31416)、CNプレイガイド、セブンチケットほか主要プレイガイド・コンビニ店頭など
※手数料がかかる場合があります。※セブンチケット取り扱いは、セブンイレブン店頭のみ。



国立西洋美術館ウェブサイト
<http://www.nmwa.go.jp/>

展覧会お問い合わせ
03-5777-8600(ハローダイヤル)

詳しい情報は展覧会公式サイトでご確認ください。
<https://artexhibition.jp/matsukata2019/>



モネ、ルノワール、ゴッホ……
流転の傑作、百年の物語

国立西洋美術館開館60周年記念

松方コレクション展

THE MATSUKATA COLLECTION: A One-Hundred-Year Odyssey

2019.6.11 [火] - 9.23 [月・祝]



[開館時間] 午前9時30分～午後5時30分(金・土曜日は午後9時まで) *入館は閉館の30分前まで [休館日] 毎週月曜日、および7月16日(火)は休館。ただし、7月15日(月・祝)、8月12日(月・休)、9月16日(月・祝)、9月23日(月・祝)は開館。[主催] 国立西洋美術館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション[協賛] 清水建設、損保ジャパン日本興亜、NISSHA、三井住友銀行[協力] 日本航空、西洋美術振興財団
[展覧会公式サイト] <https://artexhibition.jp/matsukata2019/> [展覧会お問い合わせ] 03-5777-8600(ハローダイヤル) 〒110-0007東京都台東区上野公園7-7 <http://www.nmwa.go.jp/>

流転の大コレクション 激動のドラマ

神戸の川崎造船所(現・川崎重工株式会社)を率いた松方幸次郎(1866-1950)は、第一次世界大戦による船舶需要を背景に事業を拡大しつつ、1916-1927年頃のロンドンやパリで美術品を買い集めます。10年ほどで収集した西洋美術は、モネ、ゴッホ、ロダンの彫刻など近代の作品から、中世の板絵やタペストリーまで3000点以上。欧米でも話題となるほどの急速な収集は、日本人々のために美術館を作りたいとの思いに突き動かされてのことでした。

しかし1927年、昭和金融恐慌のあおりで造船所は経営破綻に陥り、コレクションは流転の運命をたどります。日本に到着していた作品群は売り立てられ、ヨーロッパに残されていた作品も一部はロンドンの倉庫火災で焼失、さらに他の一部は第二次世界大戦末期のパリでフランス政府に接収されました。戦後、フランスから日本へ寄贈返還された375点とともに、1959年、上野に国立西洋美術館が誕生したとき、ようやく松方コレクションは安住の地を見出したのです。

開館60周年を記念した本展では、名高いゴッホ《アルルの寝室》や、近年発見されたモネ《睡蓮、柳の反映》など国内外に散逸した名品も含めた作品約160点や歴史資料とともに、時代の荒波に翻弄され続けた松方コレクションの100年に及ぶ航海の軌跡をたどります。



松方幸次郎
写真提供:川崎重工株式会社

ポール・ゴーガン
《扇のある静物》
1889年頃 油彩、カンヴァス
オルセー美術館
Paris, musée d'Orsay, cédé aux musées nationaux en application du traité de paix avec le Japon, 1959
Photo © RMN-Grand Palais / Hervé Lewandowski / distributed by AMF



フィンセント・ファン・ゴッホ《アルルの寝室》1889年 油彩、カンヴァス オルセー美術館
Paris, musée d'Orsay, cédé aux musées nationaux en application du traité de paix avec le Japon, 1959
Photo © RMN-Grand Palais / Hervé Lewandowski / distributed by AMF



アンリ・マティス《長椅子に座る女》
1920-21年 油彩、カンヴァス パーゼル美術館
Photo © Kunstmuseum Basel - Martin P. Bühler



ジョン・エヴァリット・ミレイ《あひるの子》
1889年 油彩、カンヴァス
国立西洋美術館(旧松方コレクション)



モネ“幻の睡蓮”修復後、初公開



クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》 1916年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館(旧松方コレクション)

2016年にパリで発見され、国立西洋美術館に寄贈されたことで大きな話題となったモネ《睡蓮、柳の反映》。1921年に松方がモネから直接購入した、代表的な連作「睡蓮」の中の1点です。縦2メートル、横4.25メートルの大作ですが、発見された時、画布の上半分が失われ、残った部分も激しく痛んでいました。今回、1年をかけて、現存部分を修復。蘇ったモネの傑作をお楽しみください。



修復風景



ピエール=オーギュスト・ルノワール
《アルジェリア風のパリの女たち(ハーレム)》
1872年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館(松方コレクション)



クロード・モネ《積みわら》
1885年 油彩、カンヴァス 大原美術館



エドガール・ドガ《マネとマネ夫人像》
1868-69年頃 油彩、カンヴァス 北九州市立美術館



エドゥアール・マネ《自画像》
1878-79年 油彩、カンヴァス
石橋財団ブリタニカ美術館/石橋財団アーティゾン美術館



ピエール=オーギュスト・ルノワール《帽子の女》
1891年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館(松方コレクション)

名品再会 よみがえる全貌

本展は、松方コレクションの最新の研究成果に基づいて構成します。戦前に散逸して以来初めて“松方コレクション”として公開される作品も多数展示されます。近年購入し初披露となるレミットの大作《牧草を刈る人々》、オルセー美術館所蔵のゴーガン《扇のある静物》、パーゼル美術館所蔵のマティス《長椅子に座る女》などの作品と、松方コレクションの顔とも言えるモネ《睡蓮》、ルノワール《アルジェリア風のパリの女たち(ハーレム)》などの名作が夢の“再会”を果たす貴重な機会です。



レオン・オーギュスタン・レルミット《牧草を刈る人々》
1900年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館(旧松方コレクション)



オーギュスト・ロダン《考える人》
1881-82年 ブロンズ 国立西洋美術館(松方コレクション) 撮影:上野則安

発見されたガラス乾板

2018年7月、戦前にロダン美術館に保管されていた松方コレクションのうち348点を撮影したガラス乾板(写真を焼き付けたガラス板)が発見されました。そこには損傷する前のモネ《睡蓮、柳の反映》の全体像を写したのもありました。他にも、その後散逸して不明となった作品などの貴重な情報を含むガラス乾板を本展で初公開します。



モネ《睡蓮、柳の反映》
photo Pierre Choumoff, Ministère de la Culture (France), Médiathèque de l'architecture et du patrimoine, dist. RMN-GP



モロー《ヴィーナスの誕生》

モネ《睡蓮、柳の反映》の失われた部分については、全図を写したガラス乾板をもとにデジタル推定復元(制作:凸版印刷)をすることが決定。展覧会で公開予定です。